

彩小ふれあいだより

2 年平和学習～彩の会のみなさん

平成 22 年 6 月 18 日
広島市立彩が丘小学校
校長 竹川 智 子



6月15日（水）3・4校時、2年生の彩の会の皆さまによる平和学習会がありました。彩の会による平和学習会は今年で8年目です。今年は彩の会18名の方が来ていただきました。はじめに、三好さんの手作り紙芝居によるお話です。2年生は1年生の時に原爆のアニメを見ていますが、被爆体験を直接聞くのは初めてです。しっかり体を向けて、目と耳で聞きました。普段見せることのないような真剣な表情をしています。絵をめくりながら、三好さんが質問されます。「この建物知っている人いるかな?」「知ってる!」「げんぱくドーム!」、「お兄ちゃんがいる人?」さっと手があがります。「平和公園行ったことがある?」「あるある」「なあい」「水が飲みたい、飲みたいって、川に入っていたんだよ。」つらそうな悲しそうな表情です。紙芝居に続いて、「65年たった今でも、いまだに妹さんを探し続けている人がいます。意味がわかるかな?」三好さんの紹介で、渡辺さんのお話が始まりました。渡辺さんは、当時幟町小学校の6年生。今の北広島町に学童疎開をされていました。妹さんは当時2年生だったので疎開はせずに関親と一緒に広島町の町に残りました。お母さんが朝ごはんの準備にちょっと家に戻った際、お母さんの後を追ひ、親戚の家を出て行ったそうです。そして、原爆投下。渡辺さんは広島に戻り、倒壊をまぬがれたビルなどを回り、寝かされている人たちの中に妹さんはいないか毎日毎日探し歩かれたそうです。「どうしてせんそうしたんですか」こんな質問がでました。お話を聞いて抱いた純朴な疑問。これからの6年までの小学校の平和学習や歴史学習の中で自ら解決していける子どもに育てたいと思いました。

